

過去に広報に掲載した 主な防災関連情報

【2009年(平成20年)】
9月号「保存版 防災マップ」
※市ホームページにあります。



屋内・屋外で地震に
遭ったら



地震の揺れと被害想定
避難するときは



非常時に役に立つもの



わが家の防災メモ

【2011年(平成23年)】
3月18日発行(A4版)
「号外」



表面 (買いだめ控え協力願ひ、停電時
の火の取り扱ひ、計画停電)
裏面 (ごみ収集日の変更、節水協力願
ひ、市立病院の対応、休日夜間
急患センターの診療時間など)

○4月号2〜5ページ

「東北地方太平洋沖地震が発生」

・計画停電、節水、市各部署の対応
状況、義援金詐欺注意、ボラン
ティアの登録などの情報を掲載

○5月号4〜5ページ

「東日本大震災の対応」

・前月号の内容の最新情報を掲載

○6月号2〜5ページ

「緊急情報メールにご登録ください」

・防災情報などの市からの緊急情報
を、皆さんの携帯電話やパソコン
に電子メールで配信するサービ
スの登録方法などを掲載

○11月号4〜5ページ

「日頃から災害に備えましょう」

・市が指定している一次・二次避難
所の紹介や非常持ち出し袋などの
掲載

被災地派遣職員の体験記

【企画調整情報政策係 菅原 巧】

本庁舎で救援物資の担当に従事して
いた私は、被災地の物資不足がニュー
スで伝えられるたびに「この物資を早
く届けてあげたい」と思いながら物資
の仕分け作業をしていました。上司か
ら被災地派遣職員の第1陣としての出
向を打診されたとき、その思いの強さ
からか、戸惑いや不安は無く、すぐに
でも出発したい気持ちで快諾したのを
覚えています。

派遣先は岩手県山田町。出発から約
5時間後に見た被災現場の光景は、町
全体が津波にえぐられ、火災で焼き尽
くされた悲惨なもので
した。電柱の先端に絡
みついた養殖用の浮き
や町中に散乱する茶わ
んなどの生活用品。あ
まりに非現実的な光景
と何かが焼け焦げた異
臭に言葉を失いました。



従事先は、山田湾から内陸側へ車で
20分程の場所にある、近隣地域の炊き
出しの拠点施設になっ
ている避難所。そこで、主
に救援物資の荷下ろしと
仕分け、被災者への物資
配給、炊き出しおにぎりの
箱詰めなどに従事しま



した。
物資を求める被災者は、証明書を持
参し、そこに書かれている世帯人数分
が配給されます。その裏面には、過去
の配給状況が書かれていて「前回は
カップ麺でしたので、今回はレトルト
おでんにしますね」というような会
話をして配給物資を決めます。業務は
19時に終了し、報告書を作成して22時
に終わります。持
参したボディイ
ーパーで体を拭
き、事務室の床に
段ボールを敷いて
寝袋に入り一日が
終わります。



ボランティアスタッフの中には被災
されたかたもいました。今後に不安を
抱えながらも必死に働いている姿には
胸が締め付けられる思いでした。最終
日に「来てくれて本当にありがとう。
地元に戻っても頑張ってください。そ
して、いつかまたこの町に遊びに来て
ください」という言葉をいただき、復
興への強い意志を感じるとともに、私
も頑張らなければと、逆に勇気をもら
い大館への帰路につきました。

今回の派遣で特に印象に残ったのは、
家族や友達を亡くした子ども達の悲し
げな表情でした。子ども達に笑顔を取
り戻すため、今後もボランティア活動
を続けていきます。